

「^お上山^ろ城」からのたより 盛夏・第158号

品川の東海寺

(公財) 上山城郷土資料館理事 御領奈美

品川に東海寺というお寺がある。かつては広大な寺域を持ち、多くの塔頭も存在していた。沢庵宗彭が出羽上山より流罪を解かれて後、三代將軍家光のバックアップによって築いた寺である。明治以降召し上げとなった土地の一部には、明治6年近代ガラス工業発展の礎となる興業社が創設され、これは明治9年に官営品川硝子製造所となる。また、このあたりは、東海道線山手線など、JRの大動脈が順次敷設

され、今では鉄道に沿って建物が密集する地域となっている。

今日、東海寺の面影を残しているものにかつての塔頭であった女性院と、線路にはさまれた小さな墓地があり、ここに沢庵和尚が眠っている。京浜東北線のわきの細い道から奥に入ると右塔が立ち、墓道へと続く。わずかな道程だが、中は別世界が広がっていた。生い茂る木立を進むと奥に木戸が見え、和尚の墓であることが分かった。和尚の背面には東海道新幹線が数分おきに轟音をたてているが、不思議な静けさである。墓前には弟子とみられる高僧が何人も眠っていた。木戸の横

た和尚が交流した人物は幅広い。徳川家光との出会いは若い頃から親交のあった柳生宗矩との縁と伝わっている。上山で過ごした数年は、多忙な人生の中の大変貴重な安らぎの時間となっていたことだろう。墓参をして、東海寺の春雨庵で上山のことを懐かしむ和尚の心が伝わってきた。



に国指定史跡であることが説明されているが、和尚の事績の中には出羽上山の文字も見えた。

戦国の世に生まれ先を見通し難い情勢の中で、千利休のDNAを受け継ぎ、茶道、兵法、外交をも手掛け



【常設展示室から】抽選で景品が当たる、クイズ上山城探検、を毎月実施中。クイズを解きつつ、ご見学をお楽しみください。